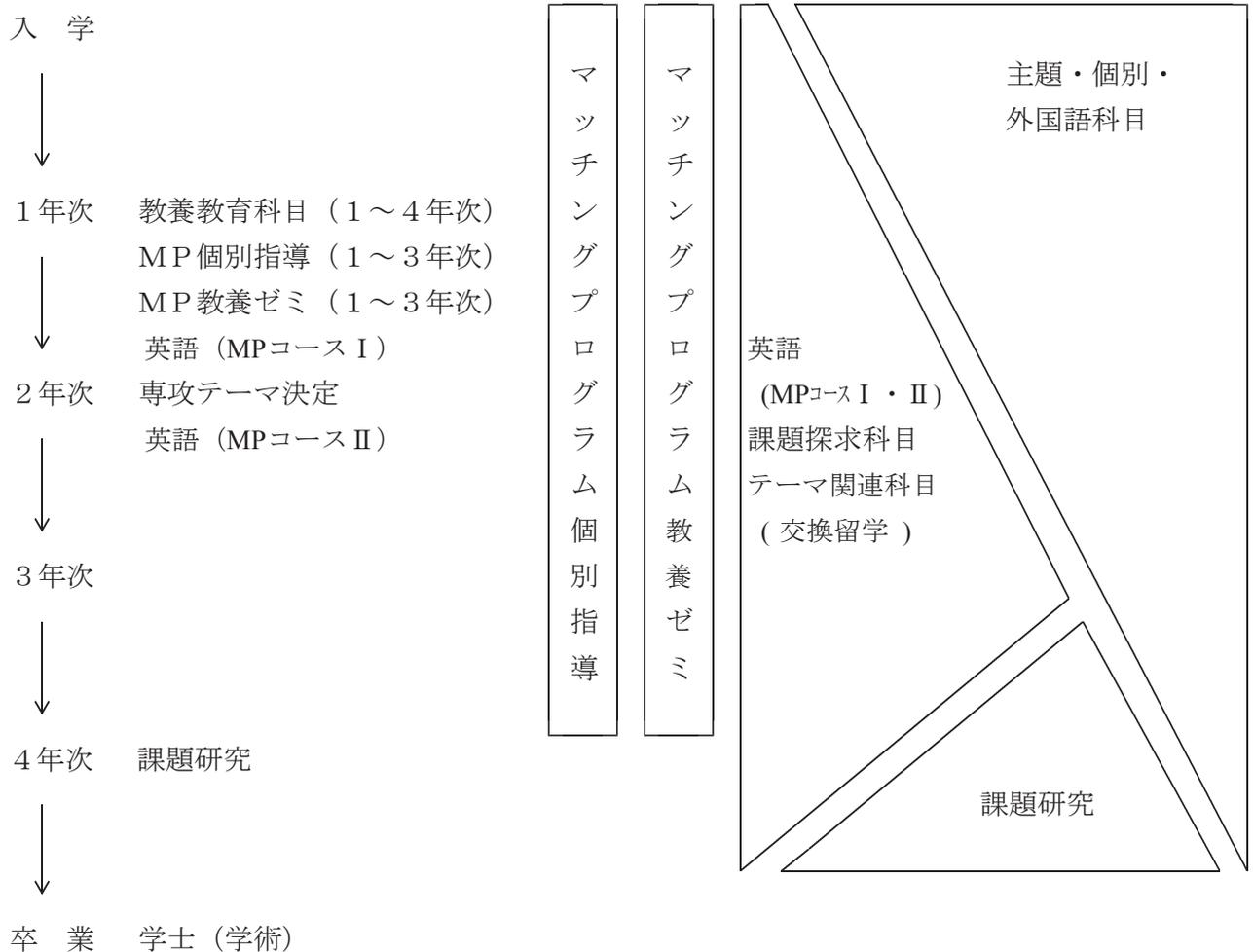


3. マッチングプログラムコース履修のしくみ

このプログラムは、理学部を責任学部として運営されますが、本学の持つ全ての教育資源を最大限に活用する新しい教育課程です。その教育は、個別指導と少人数制を基本としています。

履修の制限が付くこともありますが、全ての学部は、その開講科目をMPコースの学生が履修することを原則的に認めることになっています。



4. マッチングプログラムコース履修科目区分表

区分	授業科目区分	卒業要件単位数		授業科目	履修年次				
					1年次	2年次	3年次	4年次	
					前	後	前	後	
教養教育科目	ガイダンス科目	2		自然科学入門(MPコース)	②				
	主題科目	現代の課題	2以上		○	○	○	○	
		人間と社会	2以上		○	○	○	○	
		健やかに生きる	2以上		○	○	○	○	
		自然と技術	2以上		○	○	○	○	
	個別科目	人文・社会科学		人文・社会科学系科目	○	○	○	○	
		自然科学		自然科学系科目	○	○	○	○	
		生命・保健科学	4 (スポーツ 履修2単位以上)	健康・スポーツ科学	○	○	○	○	
		情報科学		スポーツ演習(する・みる・支える)	○	○	○	○	
				情報処理入門 (情報機器の操作を含む)	○	○			
	外国語科目	英語	1	16	総合英語 1		①		
			1	以上	総合英語 2		①		
			1	(指定	総合英語 3	①			
			1	する	総合英語 4	①			
			4	英語	総合英語 5		①	①	
			4	12			①	①	
			4	単位を 含む)	プレ上級英語			○	
					上級英語			○	
					英語特別演習 1			○	
					英語特別演習 2			○	
		ドイツ語			ドイツ語初級	○	○	○	
					ドイツ語中級		○	○	
		フランス語	4	以上	フランス語初級	○	○	○	
				フランス語中級		○	○		
	中国語			中国語初級	○	○	○		
				中国語中級		○	○		
	韓国語			韓国語初級	○	○	○		
				韓国語中級		○	○		
	ロシア語			ロシア語初・中級					
	スペイン語			スペイン語初・中級					
	イタリア語			イタリア語初・中級					
	合計	30～44							
専門教育科目	MP教育科目 (必修科目)	6	20	MP個別指導 1	②				
				MP個別指導 2		①	①		
				MP個別指導 3			①	①	
		4		英語 (MPコースⅠ)	②				
				英語 (MPコースⅡ)		②			
		10 (各2単位履修)		MP教養ゼミ(コミュニケーション)	○	○	○		
		MP教養ゼミ(日本語)	○	○	○				
		MP教養ゼミ(異文化)	○	○	○				
		MP教養ゼミ(自然科学)	○	○	○				
		MP教養ゼミ(倫理・哲学)	○	○	○				
MP教育科目 (選択科目)	0～2	0～2	キャリア育成セミナー (※. マッチングプログラムコース履修細目3. 2参照)						
専門科目	総合選択履修科目	4	4～22	情報処理関連科目 (設置学部が開講する専門教育科目の情報関連科目)			4		
		0～18		テーマ関連科目 (各学部が開講する専門教育科目)			0～18		
	課題科目	46		56	課題探求科目 (各学部が開講する専門教育科目)			46	
	10	課題研究				⑩			
	合計	84～98							
	総合計	128							

※ ○の位置は履修可能時期 (セメスター) を、中の数字は単位数を示します。 例. ②=2単位

5. マッチングプログラムコース履修細目

※ この細目中で「単位以内」とあるのは、卒業要件単位数に含めることのできる単位数の上限を示す。
(この単位数以上の単位を取得しても、卒業要件単位とはならないので注意すること。)

1 教養教育科目は、卒業要件として1) から6) に従い、30単位以上44単位以下を修得する。

- 1) ガイダンス科目2単位は必修とする。
- 2) 主題科目 …… 8単位以上を修得する。ただし、4つの主題グループのそれぞれから1授業科目は、修得しなければならない。
- 3) 個別科目 (生命・保健科学)
…… 4単位以内を修得する。このうちスポーツ演習する・みる・支えるのいずれかから2単位以上を修得しなければならない。
- 4) 外国語科目は、指定された英語12単位と英語特別演習1又は英語特別演習2又は初修外国語を含む16単位以上を修得すること。
- 5) 外部検定試験等の結果により単位を認定する。
(別表第1「外部検定試験等による単位認定について」参照)
- 6) プレ上級英語及び上級英語は、3年次で履修することが望ましい。
英語を意欲的に学習する学生は、3年次以外の時期にも履修することを推奨する。

2 専門教育科目は、卒業要件として1) ~3) に従い、84単位以上98単位以下を修得する。

- 1) 専門基礎科目は、20単位以上を修得する。
- 2) 専門科目の総合選択履修科目は、4単位以上22単位以下(情報処理関連科目4単位を含む。)を修得する。
- 3) 専門科目の課題科目は、56単位(課題研究10単位を含む。)を修得する。

3 MP教育科目

- 1) 必修科目については、指定されたクラスで履修する。
- 2) 現在開講されている科目については、開講されない場合もあるので、各自でシラバスを確認の上、履修登録してください。
※キャリア育成セミナー・・・平成25年度は開講しません。次年度以降のシラバスを確認の上、履修登録してください。

4 総合選択履修科目

- 1) 情報処理関連科目は、設置学部が開講する専門教育科目の情報関連科目4単位を修得する。
- 2) テーマ関連科目は、各学部の専門教育科目から18単位以内を修得する。

5 課題科目

課題探求科目は、各学部の専門教育科目から46単位を修得する。

6 履修科目の登録単位数の上限設定

- 1) 履修科目として登録できる単位数の上限は、1年間42単位とする。ただし1年次前期においては、28単位を上限とする。
- 2) MPコース教育部長が教育上特別の必要があると認めた場合は、42単位を超えて履修科目を登録できる。

7 課題研究の履修条件

3年次後期終了時でMPコースの卒業要件単位128単位のうち、修得単位が100単位以上の者。

8 副専攻コースの履修について

副専攻コースは、MPコースで学習した知識を、さらに広い視野で有効に活かすことのできる能力を養ってもらうために別の教育課程として設けたもので、全23コースがある。

MPコースの学生は、英語コース、ドイツ語コース及びフランス語コースに限り履修できる。

履修対象者は、単位修得状況が良好、成績優秀で副専攻コースの履修が可能と認められた者である。

また、副専攻コースとしての履修により修得した単位は、教養教育科目を除き、卒業要件単位にはならない。

【外部検定試験等による単位認定について】

次の基準により単位認定します。
単位を満たした学生で、単位認定希望者は理学部事務室マッチングプログラムコース教務担当へ申し出てください。

単位認定の参考例

●入学時TOEIC-IPで700点を取得した後、他のTOEIC（例：カレッジ TOEIC）で750点を取得した場合

当初の認定：「TOEIC-IP 700点」……総合英語5 認定(1単位)
※「英語」の同レベルでの合格基準ですでに1単位認定済みのため、追加で1単位の認定はしない

●入学時TOEIC-IPで700点を取得した後、他のTOEIC（例：カレッジ TOEIC）で810点を取得した場合

当初の認定：「TOEIC-IP 700点」……総合英語5 認定(1単位)
追加の認定：「カレッジTOEIC 810点」……総合英語5 認定(1単位) 計2単位
※「英語」の単位認定の上限は2単位のため、3単位として認定はしない

別表第1（平成25年度以降入学者（夜間主コースを除く。））

外国語の種別	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
英語	TOEIC 又は TOEIC IP	800点以上	総合英語5	2単位まで
	-----	-----		
	実用英語技能検定（英検）	1級		
	-----	-----		
	国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	A級		
	-----	-----		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	570点以上		
-----	-----			
TOEFL iBT	89点以上	-----	-----	
ドイツ語	TOEIC 又は TOEIC IP	700点以上	総合英語5	1単位まで
	-----	-----		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	540点以上		
	-----	-----		
TOEFL iBT	74点以上	-----	-----	
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	-----	ドイツ語初級I（読本） ドイツ語初級II（文法） ドイツ語初級II（読本） ドイツ語初級I（総合） ドイツ語初級II（総合） ドイツ語中級	-----
		4級	ドイツ語初級I（文法） ドイツ語初級I（読本） ドイツ語初級II（文法） ドイツ語初級II（読本） ドイツ語初級I（総合）	4単位まで
		5級	ドイツ語初級I（文法） ドイツ語初級I（読本）	2単位まで
フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級I（文法） フランス語初級I（読本） フランス語初級II（文法） フランス語初級II（読本） フランス語初級I（総合） フランス語初級II（総合） フランス語中級	8単位まで
		4級	フランス語初級I（文法） フランス語初級I（読本） フランス語初級II（文法） フランス語初級II（読本） フランス語初級I（総合）	4単位まで
		5級	フランス語初級I（文法） フランス語初級I（読本）	2単位まで

中国語	漢語水平考試 (HSK) (筆記試験のみ)	3級以上	中国語初級 I (文法) 中国語初級 I (読本) 中国語初級 II (文法) 中国語初級 II (読本) 中国語初級 I (総合) 中国語初級 II (総合) 中国語中級	8単位まで
		2級	中国語初級 I (文法) 中国語初級 I (読本) 中国語初級 II (文法) 中国語初級 II (読本) 中国語初級 I (総合)	4単位まで
		1級	中国語初級 I (文法) 中国語初級 I (読本)	2単位まで
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級 I (文法) 韓国語初級 I (読本) 韓国語初級 II (文法) 韓国語初級 II (読本) 韓国語初級 I (総合) 韓国語初級 II (総合) 韓国語中級	8単位まで
		1級	韓国語初級 I (文法) 韓国語初級 I (読本) 韓国語初級 II (文法) 韓国語初級 II (読本) 韓国語初級 I (総合)	4単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語初級 I (総合) スペイン語初級 II (総合) スペイン語中級	8単位まで
		5級	スペイン語初級 I (総合) スペイン語初級 II (総合)	4単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語初級 I (文法) イタリア語初級 I (読本) イタリア語初級 II (文法) イタリア語初級 II (読本) イタリア語中級	8単位まで
		4級	イタリア語初級 I (文法) イタリア語初級 I (読本) イタリア語初級 II (文法) イタリア語初級 II (読本)	4単位まで
		5級	イタリア語初級 I (文法) イタリア語初級 I (読本)	2単位まで

- 備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。
2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

別表第2（平成25年度以降入学者（夜間主コースを除く。））

海外語学研修の実施機関	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価がD（下級）以上	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目 	2単位まで
アデレード大学	アデレード大学の成績評価がD以上	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目 	4単位まで
エクセター大学（INTO エクセター大学）	エクセター大学（INTO エクセター大学）の全ての成績評価項目が Satisfactory 以上で、かつ、最終試験結果が60%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目 	4単位まで
成均館大学校	成均館大学校の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
	成均館大学校の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語中級 韓国語初級Ⅱ（総合）	4単位まで
上海理工大学	上海理工大学の成績評価が60点以上	中国語中級	2単位まで

- 備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。
 2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
 3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

6. 単位修得について

履修登録について

岡山大学学則、マッチングプログラムコース規則等の単位取得に関する規定に従って、各自がアカデミック・アドバイザー（以下、「AA」という。）と相談のうえ、履修計画を立て、各年度ごとの授業時間割表・シラバス等により、履修を希望するすべての授業科目を各学期の始めに履修登録します。（他学部開講科目の履修については、授業担当教員の許可を受けること。）履修登録は指定された期間中に学生が大学内のパソコンを操作してコンピュータ登録します。（履修登録のない科目の単位修得は認められません。）また、履修登録の手続期間以外は、原則として履修科目の変更（追加登録・取り消し）は認められません。集中講義の履修登録については掲示等によりその都度指示します。

なお、他学部で履修する専門教育科目は、マッチングプログラムコースにおける専門科目のどの区分（情報処理関連科目、テーマ関連科目、課題探求科目）になるのかを各自の履修計画に基づき決定しますので、よくAAと相談してください。

試験（専門教育科目）

- 1 試験の時期・・・各授業担当教員の指示によって行われます。
- 2 受験の延期・・・病気その他やむを得ない理由で受験できなかった者は、各授業担当教員の判定により追試験を受けられることがあります。
- 3 受験の心得・・・受験にあたっては、別に示される受験心得や各授業担当教員の指示に従って受験すること。

※ 教養教育科目については「履修の手引」を参照のこと。

単位の修得

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれかの方法、またはこれらの二以上の併用により行われます。授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準とし、授業内容の方法による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、専門教育科目（1単位）につき、次の基準により単位数が定められています。

授業の種類、方法	授業による学修時間	授業時間外の学修時間
講義	15時間	30時間
演習	15時間又は30時間	30時間又は15時間
実験、実習	30時間又は45時間	15時間又は0時間
課題研究	必要な学修等を考慮して、単位数を定める。	

単位の修得は、授業の2/3以上出席したものにつき、試験、報告書及び平素の成績を考慮して各授業担当教員が判定します。

成績の評価

授業科目によっては、「修了」または「認定」を用いて合格の標語とすることがあります。

評語	G P	評価基準（評点）
A+	4	90点～100点（合格）
A	3	80点～89点（合格）
B	2	70点～79点（合格）
C	1	60点～69点（合格）
F	0	0点～59点（不合格として単位を与えません。）
W	対象外	履修登録後において、本学が別に定める履修取消期間内に、履修取消手続きを行った授業科目のため評点はない。

※ 上記G Pから、次の計算式でG P A（グレード・ポイント・アベレージ）が算出されます。これは、学習達成度の目安として使用されることがあります。これは、在学期間を通して集計されますので、「F」を取りますと、大きく下がります。注意してください。

$$G P A = \frac{\text{（履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のG P）の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}$$

（小数第3位を四捨五入）

成績の通知

履修登録科目の成績は、前期末及び後期末に通知（各自がコンピュータで確認）します。後期末の成績通知については、4年次生は3月上旬頃に、1～3年次生については、3月中旬頃に通知します。

なお、特段の理由のない限り、保護者にも成績が通知されます。

他大学等の授業科目の履修について

他大学等の授業科目の履修がMPコースで認められた場合は、履修して修得した単位が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

他大学の履修科目（例えば、臨海実習など）の履修を希望する者は、所定の手続により履修を申し出ること。

その他

単位修得に関係あることは、理学部事務室教務学生担当又はMPコースの掲示板で連絡するので見落とさないよう注意すること。

試験における不正行為の取扱い

〔 平成16年5月19日
教育研究評議会決定 〕
改正 平成23年 2月16日

- 1 この取扱いは、岡山大学学生に係る懲戒等に関する申合せ第20項の規定に基づき、岡山大学が実施する試験において不正行為を行った学生の取扱いについて定めるものである。
- 2 退学又は停学は、次に掲げる不正行為を行った場合とする。
退 学
 - 一 代理（替玉）受験をしたり、させた場合
 - 二 その他特に悪質な不正行為をした場合停 学
 - 一 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合
 - 二 答案を交換した場合
 - 三 その他不正行為を行った場合
- 3 不正行為を行った者には、直ちに解答を止めさせ、試験終了まで当該試験室で待機させる。
ただし、試験実施上、他の受験者に迷惑を及ぼすと判断される場合は、退室を命じ、試験終了まで、所属学部等の教務担当事務で待機させる。
- 4 不正行為が判明した場合、当該学生の所属する学部長（研究科長）は、当該学生に対し直ちに謹慎を命ずる。
- 5 当該学生が所属する学部（研究科）は、不正行為者の動機、手段等について詳細に調査し、処分の程度を慎重に審議する。
- 6 不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。
- 7 共謀の不正行為にあつては、依頼者及び被依頼者とも原則として同一の処分とする。
- 8 停学期間は、3月を超えるものとし、始期は不正行為のあった日の翌日とする。
- 9 第3項の取扱いは、不正行為を行おうとした場合又は試験室において監督者の注意若しくは指示に従わない場合に準用する。
- 10 前項の場合における当該学生の当該授業科目の単位は認定しない。
- 11 この取扱いは、平成23年4月1日から適用する。

《 受 験 心 得 》

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

7. 開講科目一覧

[教養教育科目]

学 年	講義番号	授 業 科 目	期別・単位			履修区分	備 考
			前期	後期	通年		
1	910082	自然科学入門 (MP コース)	2			必修	
主題科目 (現代の課題, 人間と社会, 健やかに生きる及び自然と技術), 個別科目, 外国語科目 (英語特別演習 1 又は英語特別演習 2 又は初修外国語) については, 選択になっています。 ※ 講義番号は, 必ず教養教育科目の履修の手引き・授業時間表及びシラバスで確認すること。							

[専門基礎科目及び専門科目]

学 年	講義番号	授 業 科 目	期別・単位				履修区分	備 考
			前期	後期	通年	特別		
1	120101	MP 個別指導 1			2		必修	平成25年度開講
	120205	英語 (MP コース I)			2		必修	平成25年度開講
2	120102	MP 個別指導 2	1				必修	平成26年度開講
	120103	MP 個別指導 2		1			必修	平成26年度開講
	120206	英語 (MP コース II)			2		必修	平成26年度開講
3	120104	MP 個別指導 3	1				必修	平成27年度開講
	120105	MP 個別指導 3		1			必修	平成27年度開講
1～3	120301	MP 教養ゼミ (コミュニケーション)	2				必修	平成25年度開講
	120302	MP 教養ゼミ (日本語)		2			必修	平成25年度開講
	120303	MP 教養ゼミ (異文化)	2				必修	平成26年度開講
	120304	MP 教養ゼミ (自然科学)		2			必修	平成26年度開講
	120305	MP 教養ゼミ (倫理・哲学)	2				必修	平成27年度開講
1～4	120401	キャリア育成セミナー				2	選択	平成25年度は開講しない
4	120701	課題研究			10		必修	

授業科目の詳細は, 必ずシラバスで確認すること。

これ以外の専門教育科目については, アカデミック・アドバイザーと相談しながら, 他学部開講の専門教育科目を履修すること。